



2018年7月2日(月)発行 【季刊誌(年4回)発行】

発行部署 : 陸運事業本部 企画部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4600
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 石山 義裕

夏号

(No.135)

[目次]

1. いわき市所在の化学メーカーによる共同配送を開始
2. MCLC首都圏ロジスティクスセンター新規倉庫 11月営業開始
3. 貨物自動車運送事業輸送安全規則等の改正
4. 新東名高速道路における中継物流拠点の整備
5. MCLC「テレワーク勤務制度」導入
6. MCLC場所紹介 ～山梨営業所(山梨県中巨摩郡)～
7. MCLC生産物流スタッフ勉強会 開催

1. いわき市所在の化学メーカーによる共同配送を開始

当社は6月1日より、福島県いわき市所在の化学メーカー5社(株式会社クレハ、有機合成薬品工業株式会社、城北化学工業株式会社、他2社)から出荷される小口貨物の共同配送を開始しました。

近年の物流事情はトラックドライバー不足、人材確保に必要な資源確保に伴う運賃値上げ、輸送品質の低下(誤配送、延着、破損等)などにより、一層厳しいものとなっています。

こうした中、輸送品質の向上と安定した輸送体系の確保を図るため、いわき市所在の化学メーカーと当社が一体となり共同配送システムを構築し、運用を開始しました。配送地域が限定された従来の共同配送とは異なり、今回構築した共同配送による配送先は全国を対象としています。

いわき市好間工業団地内に集荷拠点を設置し、各化学メーカーの貨物を集めます。そこから埼玉県及び神奈川県向け貨物は専用の幹線便で当社中継デポ(埼玉県・神奈川県)まで輸送し、中継デポからは小型車で配送します。なお、当面はその他の地域向けには路線便で対応します。

現在は化学メーカーがお客様の中心となっていますが、今後は、混載可能であれば化学メーカー以外の製品も取り扱い、さまざまな業種のお客様を取り込み拡大発展していきたいと考えております。

また、取扱い貨物量の増加に合わせて、中京地区や関西地区での中継拠点の設置と専用便による幹線輸送を拡充する計画です。

今回の取り組みは物流に関わる諸課題の解決を図るだけでなく、環境負荷の低減にもつながるものとして進めて参ります。



MCLCいわき:集荷拠点 (誠和梱包運輸(株)内)

2. MCLC首都圏ロジスティクスセンター新規倉庫 11月営業開始

首都圏ロジスティクスセンター(以下、首都圏LC:埼玉県加須市)では、旧倉庫(1期倉庫)のスクラップ&ビルドにより、11月から新規倉庫(4期倉庫)の営業を開始する予定です。新規倉庫は、昨今引合いが増加している危険品の取扱いニーズに応えるべく、定温と常温に対応可能な危険物倉庫と、一般用の多層階(4階建)倉庫として設立します。

当社の関東圏における物流拠点は、首都圏LCの他に、五井営業所(千葉県市原市)及び神奈川LC(神奈川県愛甲郡愛川町)の自営倉庫があり、この3拠点を中心として保管・配送網の機能強化を図って参ります。倉庫をお探しの方は、お気軽に当社HPよりお問い合わせ下さい。



【関東圏の自営倉庫3拠点】

【首都圏ロジスティクスセンター概要】

<一般用倉庫>

	保管面積
2期倉庫(2階建)	1,763坪
3期倉庫(4階建)	1,680坪
4期倉庫(4階建)	1,572坪
合計	5,015坪

※保管能力 : 15,000t(フレコン換算)

<危険物倉庫>

危険物倉庫	保管面積
1倉(常温管理)	97坪
2倉(25℃管理予定)	49坪
3倉(15℃管理予定)	45坪
合計	191坪

※保管能力 : 350t(4類3石換算)

3. 貨物自動車運送事業輸送安全規則等の改正

バス・タクシー・トラック事業における居眠り運転に起因する事故の防止、並びに働き方改革を進める観点から、運転者の睡眠時間確保について事業者の意識を高めることを目的に、旅客自動車運送事業運輸規則及び貨物自動車運送事業輸送安全規則が改正されました。

今回の改正では運転者の睡眠不足による事故の防止を一層推進するため、睡眠不足の乗務員を乗務させてはならないこと等を明確化し、点呼簿の記録事項として睡眠不足の状況を追加することが定められています。

【改正の概要】

①旅客自動車運送事業運輸規則及び貨物自動車運送事業輸送安全規則の一部改正

- ◇事業者が乗務員を乗務させてはならない事由等として、睡眠不足を追加。
- ◇事業者が乗務員の乗務前等に行う点呼において、報告を求め、確認を行う事項として、睡眠不足により安全な運転をすることができないおそれの有無を追加。
- ◇運転者が遵守すべき事項として、睡眠不足により安全な運転をすることができない等のおそれがあるときは、その旨を事業者申し出ることを追加。

②「旅客自動車運送事業運輸規則の解釈及び運用について」及び「貨物自動車運送事業輸送安全規則の解釈及び運用について」の一部改正

- ◇点呼時の記録事項として、睡眠不足の状況を追加。

【スケジュール】

- ◇公布 : 2018年4月20日
- ◇施行 : 2018年6月1日



4. 新東名高速道路における中継物流拠点の整備

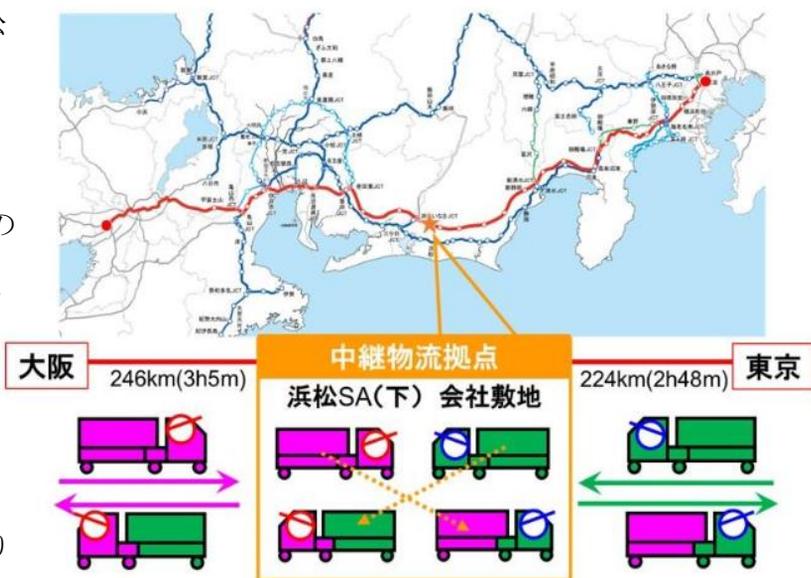
NEXCO中日本(中日本高速道路株式会社)は、新東名高速道路の浜松サービスエリア(SA)下り線敷地内に中継物流拠点を整備することを発表しました。

これは、すべての物流事業者が利用可能な設備で、高速道路会社では初の事業となるものです。

中継物流拠点では、関東方面、関西方面からのトラックドライバーが浜松SAの中継拠点でトレーラー交換もしくはドライバー交代を実施することで、貨物はそれぞれ目的地へ輸送されるとともに、ドライバーは長距離輸送することなく日帰り運行することが可能となります。

これにより、不規則な就業形態や長時間労働などの労働環境が改善され、安全性の向上も見込めることから、ドライバー不足解消にも繋がること期待されます。

【中継物流拠点位置図とイメージ図】



(※大阪：E1 名神高速道路 吹田IC、東京：E1 東名高速道路 東京IC)

(出所) 中日本高速道路株式会社発表資料より

【概要】	1. 時期	2018年夏頃
	2. 駐車マス数	30 (セミトレーラー対応)
	3. 利用料金	600円/台・回 (予定)

5. MCLC「テレワーク勤務制度」導入

当社では、従業員や職場の『健康支援』と『働き方改革』を両輪として、健康という視点から、企業の最も大切な財産のひとつである「働く人」の活躍を最大化する“KAITEKI健康経営”を推進しています。これは「一人ひとりが健康で満足できる働き方」と「一人ひとりが生き活きと能力を発揮できる職場環境」を同時に追求することです。その“働き方改革”の一環として、5月よりテレワーク※勤務制度を導入しました。

テレワークは、ICT等を活用し、柔軟な働き方を可能とする職場環境を構築し、働き甲斐や満足度の向上、生産性の向上を図ることを目的としています。自身の業務管理を責任もってできることを前提としており、育児・介護を担う一部の従業員を対象とした福利厚生策ではなく、プライベート事情との両立、都市部の通勤負荷軽減など、多くの社員が有効活用できる制度です。

テレワークは、「モバイルワーク」「在宅勤務」「サテライトオフィス」の3種類がありますが、当社では在宅勤務をテレワークと呼び、自宅や自宅外(図書館等)の集中できる環境での業務を薦めています。また、モバイルワークについては、以前より営業部門を中心にモバイルPCを支給し実施しています。

テレワークの最大の目的は、「多様な働き方」の推進です。働き方の選択肢を広げ、より生き活きと働ける環境を創出します。具体的なメリットとしては、「ワーク・ライフ・バランスの向上」「生産性の向上」「通勤負荷の削減」等があげられます。

今後は、職場単位で良好なコミュニケーションを維持しながら活用して参ります。



※テレワーク: 情報通信技術(ICT=Information and Communication Technology)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことで、「tele = 離れた所」と「work = 働く」をあわせた造語

参考：(一社) 日本テレワーク協会：http://www.japan-telework.or.jp/

6. MCLC場所紹介 ～山梨営業所(山梨県中巨摩郡)～

東日本エリア営業部 山梨営業所は、富士山・八ヶ岳・南アルプスに囲まれた甲府盆地のちょうど真ん中あたり、山梨県中巨摩郡昭和町に事務所があります。メンバーは男性14名、女性2名の総勢16名で、樹脂成型製品の輸送手配、及びお客様の工場内の倉庫と外部倉庫での入出庫作業を行っています。

営業所がある山梨県には美味しい郷土料理がたくさんあります。特にお勧めは「吉田のうどん」。めっちゃコシがある硬太麺と濃い目のスープが絶妙です。(よく「吉田うどん」とよばれることがあります。地元では「吉田“の”うどん」が通称です)

また、山梨県と言えばフルーツが非常に有名で、「ぶどう」「もも」などは国内最大の生産量を誇っており、近年では世界中から多くの方がフルーツ狩りに訪れています。そして、特産のぶどうを原料としたワインも生産されており、山梨県内に約80社あるワイナリーでは、見学ができる施設も多く、ワイナリー巡りもお勧めです。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

写真提供：やまなし観光推進機構



【吉田のうどん】



【フルーツ狩り】



【ワイン】

7. MCLC生産物流スタッフ勉強会 開催

当社の生産物流部門では、主に、お客様の工場内で包装・運搬・保管といったサービスを提供しています。包材の手配・受入や、原料の受入作業などの生産準備作業を行っている現場もあり、いわゆる物流の“運ぶ・保管する”といった枠組みを超え、生産の領域に踏み込んで、物流の全体最適を提案する役割を担っています。

今回、生産物流部門の若手スタッフを中心とした勉強会を3月15日～16日に黒崎支社で実施しました。

今回の勉強会では、各現場における物流効率化の取り組み内容についての紹介や、抱えている課題についてのディスカッションを行いました。また、安全QAに関するグループワークや、物流効率化手法の紹介、現場見学なども行われました。

生産物流部門のスタッフを中心にした勉強会は今回が初めてでしたが、参加者からは、「自部署にはないノウハウを知ることが出来た」「まだまだ知らないことが多く刺激になった」といった声も聞かれ、非常に充実した勉強会になりました。



編集後記

本号が発行される7月初旬は、世界中FIFAワールドカップで盛り上がり、毎日白熱した試合が行われているかと思います。オリンピックと同様に4年に1度しかないイベントだからこそ、一致団結して応援し、選手たちのプレーに歓喜できるのだと思います。

ところで、強豪国がなぜ強いかと考えた時、個人技もありますが、一番重要なのは「準備」だと思います。チームとして万全の準備(作戦)で試合に臨むことが、イメージ通りの試合運びにつながるのだと思います。私も仕事を進める上では常に準備に手を抜かず取り組みたいと思います。 H.I